

事務事業評価表（一般事業）

1 事業名	戦没者慰霊祭開催事業	コード	165127
-------	------------	-----	--------

2 担当部課	部等 健康福祉部	課等 社会福祉課	作成者 滝沢 修
--------	----------	----------	----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて		
		政策	総合計画の推進に向けて	施策	その他
		予算科目	戦没者事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	平和の尊さを改めて考えるために、戦没者に対し遺族等が追悼の意を捧げる場所を設ける			
目的	対象者	戦没者の遺族		
	意図	戦争等で亡くなった1073柱の安らかな眠りを祈り、恒久平和を誓うため追悼式を挙行		

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
第54回岡谷市戦没者追悼式を開催した 日時 平成28年9月23日 午前10時～午前11時30分				
前年度の課題への対応				

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	戦没者慰霊祭開催数			単位	回
実績値	1	1	1		
*指標の説明	戦没者慰霊祭開催数				
② 成果指標（指標名）	戦没者慰霊祭参加者数			単位	人
目標値	130	120	120	110	
実績値	108	130	120		
達成度	83.1%	108.3%	100.0%		
*指標の説明	戦没者慰霊祭に参加した数				
*目標値の設定方法の説明	過去2年間の実績値を参考に設定				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	167,364	159,517	157,787	204,000
経常経費	167,364	159,517	157,787	204,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
正規職員の人数(人)	0.15	0.15	0.15	0.15
③ 合計コスト(①+②)	1,367,364	1,359,517	1,357,787	1,404,000
前年度比		99.4%	99.9%	103.4%
財源	1,367,364	1,359,517	1,357,787	1,404,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	1,367,364	1,359,517	1,357,787	
前年度比		99.4%	99.9%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
岡谷市遺族会 補助金	件数	1	1	1	1
	金額	44,000	44,000	44,000	44,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	44,000	44,000	44,000	44,000
	割合	26.29%	27.58%	27.89%	21.57%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 92.3%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 100.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 戦没者遺族の高齢化などにより、戦没者追悼式への参加者が年々減少している。	
	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容) しばらくは、現行の形式を継続していく。	
改善方法	改善開始時期	平成30年4月～

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	-------------------------------------------	---